児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：令和4年3月29日

事業所名：重症心身障害児放課後等デイサービス　INGENU

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	新型コロナウイルスの影響により、飛沫が飛ばないよう天井からパーテーションを降ろせるように設置し、感染予防ができるよう工夫した。	はい：9　どちらともいえない：1 いいえ：0　わからない：0	基本的に十分はスペースが確保されているが、新規スタッフでの家庭の事情により、定員が超過することがあるため、スペースを十分に確保できるよう過ごす場所等を再検討する。
	2	職員の適切な配置	必要な職員は常に配置されている。新型コロナウイルスによる家庭の状況により、定員を超える場合は利用人数に合った職員配置を行った。	はい：9　どちらともいえない：0 いいえ：0　わからない：1	保護者の評価は良好で、継続して十分な職員を常に配置できるよう努めていく。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	今年度、部屋を一部屋壊し、さらにスペースを広げ、よりバギーでスムーズに動けるよう環境整備を行った。	はい：10　どちらともいえない：0 いいえ：0　わからない：0	保護者からの評価は良好で、アクリル板を撤廃し、天井からスクロール式のビニールを設置することで、よりスムーズに動きやすいような環境設定をおこなっている。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	新型コロナウイルスの流行もあり、消毒等の間瀬ｔン対策を徹底している。また、プログラムや制作等、活動状況に合わせて空間を確保している。	はい：9　どちらともいえない：1 いいえ：0　わからない：0	評価は良好だが、今後も新型コロナウイルスの影響が懸念されるため、徹底した消毒やソーシャルディスタンスを行ったうえでのプログラムの実施に努める。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	職員同士で話し合う機会が増え、会議等を定期的に行っている。		新規スタッフもいるため、職員全員が児童に対する目標設定を共有できるよう、積極的な参画を促していく。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在は実施できていない。		今後第三者の介入を検討する
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	コロナウイルスの影響で、直接的な技術研修等は実施されなかったが、ZOOMやyoutubeで研修を受ける機会が増えた。		初任者研修を2名のスタッフが受講し、介護技術の向上が見られた。継続して資質を向上するための研修への参加を促していく。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメント時に児童や保護者の情報を聴取し、児童に沿ったニーズ、課題を挙げ、計画書に取り入れるように努めている。	大半の保護者が「はい」との回答だが、「どちらとのいえない」や「わからない」との回答もあった	継続してアセスメントを適切に行い、児童のニーズに沿った計画を作成していく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	利用児童によって同じプログラムでも方法を変えており、今年度はしっかりソーシャルディスタンスをとった上でグループでの活動を増やした。		集団での活動は増やしていっているものの、感染対策を徹底し、児童同士のコミュニケーションが向上していけるようなプランを作成していく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	児童に合わせて支援に必要な項目をそれぞれ設定し、項目についての具体的な支援内容を記載している。		保護者、児童にとって、具体的でわかりやすい計画書を作成していけるよう努める。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画書で設定した目標や支援内容に沿って、改善するために必要なプログラムや制作を実施している。	はい：8　どちらともいえない：1 いいえ：0　わからない：1	保護者からの評価は良好であった。継続して計画に沿った適切な支援が出来るよう努めていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	各スタッフが役割を決め、児童全員での活動プログラムが円滑に実施できるように工夫した。個別や少人数でのプログラムの立案もはかっている。	大半の保護者が「はい」との回答だが、「どちらとのいえない」や「わからない」との回答もあった	新しいプログラムを立案するために話し合う機会を増やし、具体的な流れや方法を共有し、円滑に進められるよう考えていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日や長期休暇は保護者や本人の希望される時間に送迎できるよう調整しており、家庭の事情により送迎時間が早くなったり遅くなったりした場合も、可能な限り対応している。		新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の休校等で急な一日利用が増えたりしたため、その場に応じたきめ細やかな支援を臨機応変に行えるよう努める。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	スタッフ間で、新しいプログラムや同じプログラムでも方法を変えたプログラムにできるよう立案や工夫を行っている。		職員が増えたため、新しい職員にもいろいろな意見を出してもらい、活動プログラムをさらに発展していけるよう目指す。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日、支援終了後に次の日の利用児童の確認、バギーなどの準備や送迎担当を決め、当日の支援前にプログラムや制作の流れ、食事やおやつ介助の担当を確認している。		継続して支援開始前に送迎の流れやその日に行うプログラムの流れをスタッフ間でしっかりと話し合っていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援後に送迎やモニタリングで聴取した内容を連絡ノートやLINEに記載し、スタッフ間で共有するようにしている。		連絡ノートやLINEをしっかりと確認し、ささいなこともスタッフ間で共有していけるよう努める。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	連絡帳に、その日の体温やトイレの回数、制作やプログラムの内容を記載している。また、看護記録についても別で作成しており、保管している。		連絡帳の記載内容を適宜確認し、より必要で具体的な内容をスムーズに記載していけるよう取り組んでいく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月に一回モニタリング(現在は新型コロナウイルスの影響によりTEL)を実施しており、その後スタッフを含めた会議にて計画を見直している。		現在は電話でのモニタリングであるため、必要な情報、提供する情報を精査し、スムーズに実施していけるよう目指して行く。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	同法人内で障害児相談支援事業所を営業しており、新たに当事業所児童の相談支援事業所の利用が増えている。利用児童、保護者に必要なサービスについて会議を行っている。		相談支援事業所の職員が定期的に訪問していただけるため、会議前にしっかりと情報交換を行うことができている。
	2	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	てんかんや熱発等、急変時における対応方法を緊急連絡帳やアセスメントに記載いただいたり、学校に見学に行ったり、担当者会議に参画することで連携した支援が出来るよう努めている。		毎回てんかんが生じる児童や、人工呼吸器を使用している児童が在籍しているため、医療関係機関としっかりと連携した支援を行うことが必要である。
	3	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	主治医やNsのサマリーや指示書を確認し、看護師が必要に応じて医療的ケアを実施している。		医療的ケアに対する変更点等があれば連絡いただき、看護師と相談の下、協力医療機関と連携をとっていく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	現在移行支援は実施していない。		今後児童発達支援事業所から移行の依頼があれば、支援内容についてのサマリーや担当者会議を行い、円滑に移行できるような体制を作っていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	今年度から生活介護事業所を営業しており、去年弊所を卒業した児童が、スムーズな情報提供により、円滑に生活介護に移行することが出来た。来年度も閉所から生活介護事業所への移行予定の児童が在籍している。		去年卒業した児童は、安心して同法人の生活介護事業所を利用できているため、継続して支援内容についての十分な情報提供を実施していく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修には参加できていないものの、支援センターからの計画書や報告書をコピーさせていただき、スタッフに共有している。		今年度も新型コロナウイルスの影響により、研修等に参加できなかったが、落ち着き次第積極的な参加を目指す。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	まだ実施できていない。	はい：3　どちらともいえない：0 いいえ：2　わからない：5	まだ交流会等を開催できていないため、保護者から「いいえ」や「わからない」との回答が多かった。今後は保育所や児童館と交流する機会を作っていきたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年参加していた餅つき大会や消火訓練での地域との交流が今年も実施できなかった。	チェック項目に記載されていないため、回答なし	今年度も新型コロナウイルスの影響により、地域のイベントがすべて中止となり、外部との関わりが少なかったため、来年度は開催されれば感染対策に十分注意しながら積極的に参加する。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に、支援内容や利用者負担等についての説明を行っており、受給者証更新時やモニタリング時に変更内容や支援内容を伝えている。	はい：10　どちらともいえない：0 いいえ：0　わからない：0	去年は「わからない」との回答があったが、今年は全員が「はい」との回答であり、継続して丁寧な説明を行っていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	個別支援計画書だけでなく、計画書に対する個別支援報告書を作成している。モニタリング時に報告書とともに支援内容の説明を行っている。	はい：9　どちらともいえない：0 いいえ：0　わからない：1	モニタリングで、報告書を通じて支援内容を説明しながら次の計画における課題や新たなニーズを聴取していく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント･トレーニング等の支援の実施	現在はまだ実施できていない。	はい：6　どちらともいえない：1 いいえ：0　わからない：3	相談支援事業と連携して保護者と他サービスについても相談等を受ける機会が増えたが、保護者全員に対応できているわけではないため、保護者に対する支援を行っていける機会をふやしていく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時や連絡帳、モニタリングにて保護者と児童の変化などを連絡し合い、日々やり取りを行っている。	はい：10　どちらともいえない：0 いいえ：0　わからない：0	保護者からの評価は良好であるため、今後も送迎時や電話にて保護者との連絡をとり、日々の状況についての共通理解を徹底していく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談支援事業所と連携し、保護者の相談を聴取する機会を増やし、適切な対応が出来るよう努めている。	はい：8　どちらともいえない：1 いいえ：1　わからない：0	保護者からの相談に対して真摯に対応し、適切な対応や助言を行っていけるよう目指して行く。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	新型コロナウイルスの影響により、保護者会は実施できず、直接保護者同士が関わる機会を作ることができなかった。	はい：4　どちらともいえない：3 いいえ：1　わからない：2	新型コロナウイルス感染症による影響が落ち着き次第、すぐに保護者会の開催を行う。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情などに対応するマニュアルを作成しており、常時担当者を置いている。	はい：8　どちらともいえない：0 いいえ：0　わからない：2	苦情があった場合はマニュアルに従い、迅速で適切な対応を行っていく。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	障害のある児童、保護者によって意思疎通や情報伝達の方法を配慮している	はい：10　どちらともいえない：0 いいえ：0　わからない：0	それぞれの障害の特性を理解し、配慮しながら様々な方法を使って意思疎通を行っていく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	定期的な会報等は発行していないが、ホームページにて行事の写真などを掲載している。現在はあまり更新できていないため、随時更新していけるよう取り組んでいく。	はい：5　どちらともいえない：0 いいえ：1　わからない：4	最近はホームページをあまり更新できていないため、保護者からも「いいえ」や「わからない」との意見があったため、ホームページの更新を増やしていく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	契約時に、個人情報利用同意書を説明した上で、署名・捺印をいただいており、個人情報の管理を徹底している。	はい：9　どちらともいえない：0 いいえ：1　わからない：0	今後も個人情報保護について書類にて十分に説明し、署名・捺印をいただく。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	防犯マニュアルは策定していないが、災害マニュアルを作成している。また、防犯訓練や感染症などに対する勉強会は年に一回以上実施している。	はい：8　どちらともいえない：0 いいえ：0　わからない：2	継続して年に1回以上勉強会を実施し、知識の再確認や新しい知識をマニュアルに反映する。また、新規スタッフの入職時はすぐに研修を行うよう徹底する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	通常は防犯訓練を避難場所の小学校に協力していただき実施しているが、現在新型コロナウイルス感染症の影響で外出や小学校への移動が難しく、計画のみ作成している。来年度は必ず実施したい。	はい：6　どちらともいえない：1 いいえ：0　わからない：3	新型コロナウイルス感染症の影響が収まり次第、小学校に協力していただきながら防犯訓練を実施していく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	zoomで神戸市の虐待研修に参加し、その内容を職員同士で研修し、共有している。新規スタッフが入職した際もすぐに研修を行うよう努めている。		今後も年一回以上の虐待防止研修を徹底し、知識を再確認したり、新しい知識を共有する。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束は行っていない。		今後も身体拘束を行う予定はないが、もしもやむを得ない場合があった場合は、十分に保護者の理解を得てから行うよう徹底する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	現在は食物アレルギーの診断を受けている児童はいない。		利用児童にアレルギーがないからといって安心せず、アレルギーに関する知識をスタッフ全員が身につけ、共有することで適切に対応できるよう心掛ける。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	些細なことでもヒヤリハット報告書を記載するように周知しており、会議の際に内容について検討している。		ヒヤリハット事例を増やし、アクシデントが起こる前に未然に防げるよう常に会議などで事例検討を実施する。